

真宗大谷派
(東本願寺)

九州御坊 四日市別院

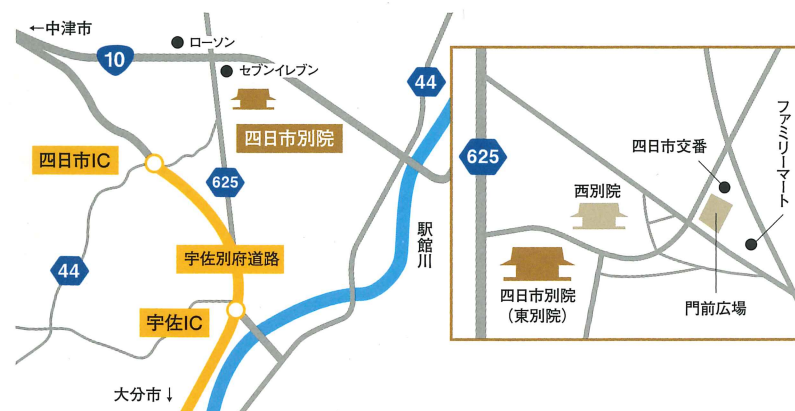


年間行事

1月1日	修正会
3月	春彼岸会・永代経
9月	秋彼岸会・永代経
12月12日～16日	報恩講(おとりこし)
12月31日	除夜の鐘



四日市別院へのアクセス



自家用車 … 四日市インターから宇佐耶馬溪線を北へ1分
JR最寄り駅 … JR日豊線・柳ヶ浦駅(タクシー15分)



真宗大谷派 四日市別院(日豊教務所)

〒879-0471 大分県宇佐市四日市1425-1
TEL 0978(32)0050 FAX 0978(32)0092

宗旨 浄土真宗
本尊 阿弥陀如来
正依の經典 仏説無量寿経
仏説観無量寿経
仏説阿弥陀経
宗祖 親鸞聖人
宗派 真宗大谷派
本山 真宗本廟(東本願寺)

四日市別院のおこり

戦国時代末期の1578年(天正5年)ごろ、豊前四日市の国人領主:渡邊氏の当主であった渡邊加賀守統述(むねのぶ)は、弟に家督を譲り、専誉(せんよ)を名乗って入道し、山本村の虚空蔵寺跡に庵を開いた。やがて大友宗麟の寺社弾圧により庵は焼き討ちに遭い、専誉は弟子と共に戦火を逃れ、国東田染などを流浪した。豊田秀吉の天下平定がおよび、渡邊氏が黒田長政との戦の末に所領を明け渡した1600年ごろ、専誉はようやく四日市常德に帰還し、「真勝寺道場」を建立した。

常德帰還から時を置かず専誉は死去し、内室が真勝寺道場を守ったが、専誉の弟で渡邊氏当主の渡邊左馬頭統政の嫡子:正願(しょうがん)が養子として跡を継ぎ、三代目住持となった。正願は1623年(元和9年)、本山より寺号と親鸞聖人御影を申し受け、正式に「實相山真勝寺」を成立させ、寺地を現在の四日市別院の場所に移転した。

1737年(元文2年)ごろ、十代目住持 宗順(そうじゅん)らの不行跡に端を発し、寺中・末寺を二分する騒動が起こった。宗順には本山より隠居が申し付けられ、真勝寺を抱寺に引き上げる裁定が下った。

真勝寺を追われた宗順は1743年(寛保3年)に至り真宗大谷派(東派)から本願寺派(西派)への改派を企てた。東派はこれに対し、幕府に事態を訴え出た。騒動は、寺社奉行大岡越前守忠相の裁断により幕を閉じた。寺跡が公儀に没収され、宗順らが八丈島へ流罪となるほか、西派の関係者が獄死した。この騒動は、のちに「真勝寺(別院)騒動」と呼ばれた。

1744年(延享元年)真勝寺は東本願寺へ御下付となり、「本山掛所御坊」となった。これが「九州御坊」と称し、全九州の716ヵ寺を統括した「別院」としての始まりである(一方西派は1760年代に既存寺院の移転名目で現在の西別院を発足した)。

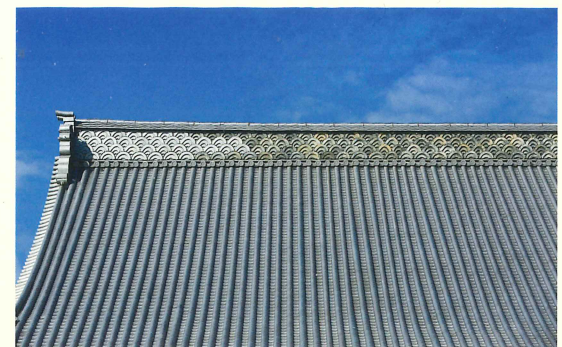
1803年(享和3年)達如宗主より九州御坊に相応しい伽藍の造営を促す御書が出され、1825年(文政9年)に本堂が成就し、伽藍が整備された。この本堂は重層で威容を誇ったが、1868年(慶応4年)の御許山騒動の際、惜しくも焼失した。

その後、「御坊」は明治になると「管刹(かんさつ)」と改称。1876年(明治9年)に真宗4派(東西本願寺・専修寺・錦織寺)共通の「宗規綱領」が発表されてから「別院」と改称された。2005年(平成17年)には山門が県指定の有形文化財に指定され、2009年には本堂・太鼓楼・経蔵・山門前石橋及び水路石垣が国指定の登録文化財に指定されている。



<http://yokkaichihigashibetsuin.oita.jp>

浄土真宗のご本尊である阿弥陀如来を安置
 するご崇敬の中心。十七間四面の大型真宗
 本堂で、九州最大級の木造建築である。真宗
 本堂の特徴的な姿であり、内陣まわりを漆
 や彩画、彫物などで飾る。1825（文政 9）年
 に重層の本堂が営まれたが、幕末の「御許山
 騒動」により焼失。現在の本堂は1880（明治
 9）年に再建された。2009 年 8 月、国の有形
 登録文化財に登録された。



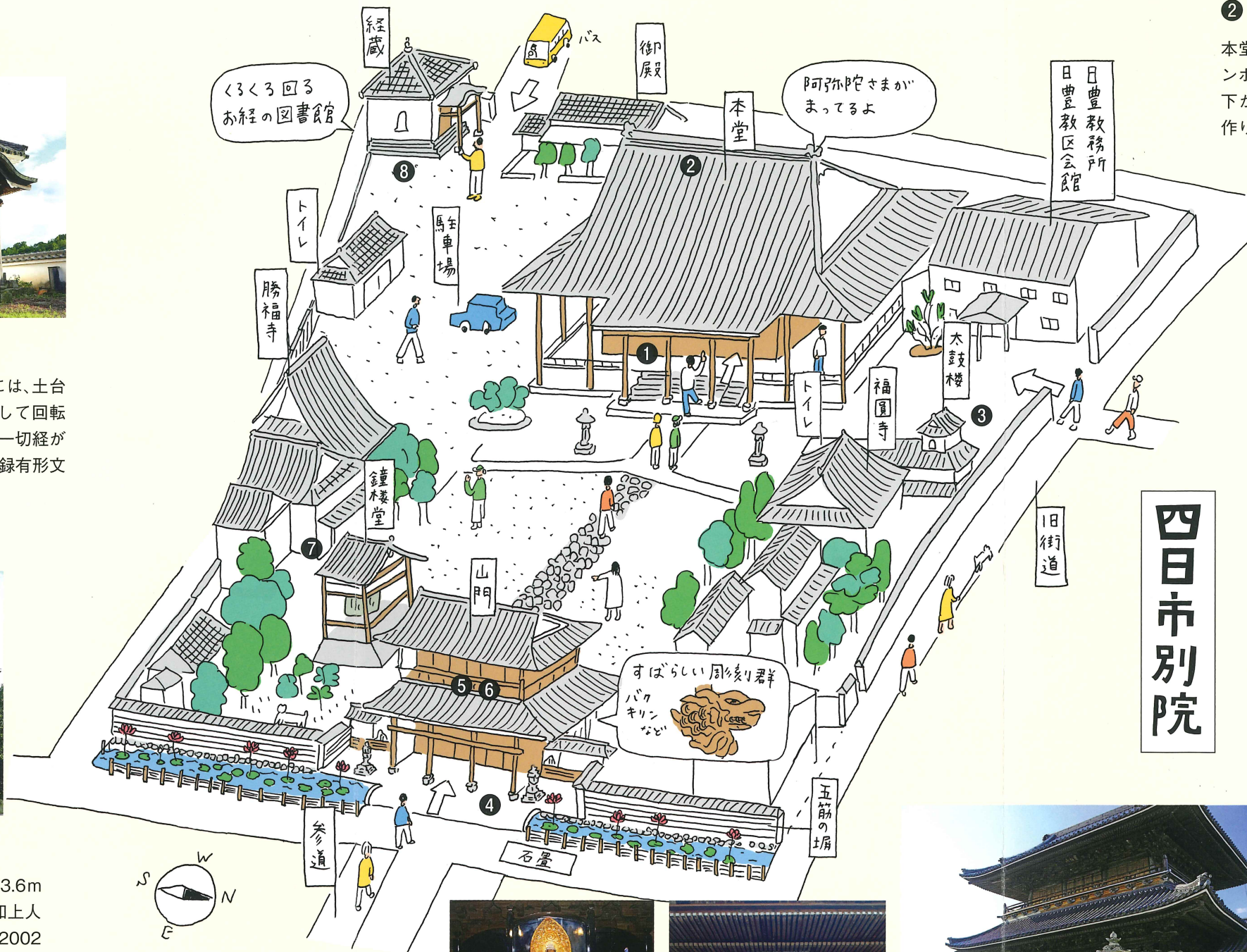
本堂屋根水板瓦の青海波模様は、四日市別院のシンボルでもある。2013年からの修復事業では、床下から発見された当初の瓦と、一枚一枚新たに手作りされた新しい復元瓦を用いている。



1799(寛政11)年建立。経蔵内には、土台から屋根裏に届く太い柱を軸にして回転する八角形の書架があり、そこに一切経が納められている。2009年、国の登録有形文化財に指定された。



高さ7.2m 間口3.3m 奥行き3.6m
平成3年の台風により倒壊。蓮如上人
五百回御遠忌記念事業として2002
(平成14)年に再建。梵鐘は1953(昭
和28)年鑄造のもの。



A photograph of a traditional Japanese building, likely a temple or shrine, featuring a tiled roof and a decorative upper section with a small arched window. The building is white with dark wood trim and is set against a clear blue sky.

二重二階の太鼓楼。東・西面の中央に花頭窓を穿ち、内部に太鼓を備える。寺院における太鼓は「時の太鼓」と称され、法要の刻限を知らせる。2009年8月、国の有形登録文化財に登録された。

二重屋根の重層門で、九州最大級の山門である。1865（慶応元）年に重層の本堂に相応しい大門として建立された。鳳凰、雲龍など、彫刻が大変見事である。二階正面には、前身となった「實相山真勝寺」をあらわすものとして、山号が掲げられている。内部には三尊仏（釈迦如来・弥勒菩薩・阿難尊者）、脇に、境内経蔵より移されたと思われる傳大師像が安置されている。山門前の石橋、石垣とともに 2005 年 3 月大分県指定有形文化財の指定を受けた。